

審査結果の要旨

審査対象者 岡田 明子

本研究は、高齢心不全患者のセルフケア能力の向上を目指す看護的支援方法を構築することを目的としており、4つの研究で構成されている。

研究1では、急性心不全患者が症状を知覚してから受診するまでの時間に影響する要因を横断的に探索し、受診までの時間にかかなりの個人差があり、年齢が若いことと、倦怠感を知覚していることが受診の遅延に関連することが示された。研究2では、患者自身が急性増悪時に感じた身体的な変化をインタビューにより聞き取り、症状に対する患者の表現をテキストマイニングによって類型化した。その結果、医療者からみた「息切れ」「浮腫」などの症状が、多様な語彙を用いて表現されていることが示された。研究3では、セルフマネジメントを促す介入についての示唆を得るため、過去10年間の文献から選定した41編を対象にレビューを行ない、患者によるリフレクションや教育の反復が有効であることを明らかにした。これらの研究の結果を踏まえ、研究4では自宅で生活する高齢患者を対象とし、リフレクションを取り入れた介入プログラムを構築・試行した。その結果、高齢心不全患者は症状マネジメントが不十分であること、認知機能の衰えがリフレクションの妨げになる可能性があること、プログラムへの参加率は低かったが参加者の完遂率は高かったこと、などが示された。

博士後期課程の学位論文審査基準に照らし合わせた結果、本研究は看護学研究にふさわしい視点を有し、課題・目的の設定、研究展開のプロセスなどの点で博士論文に値するレベルにあることが認められ、下記の点を修正・追加することを条件に合格と判定された。

- ・研究1の結果として、「倦怠感を知覚していることが受診の遅延と関連する」と述べられているが、どのような場合と比べて遅延するのかが分かるように、比較の対象を明らかにする。
- ・研究3でレビューを行った論文には、高齢者以外を対象としたものも含まれる。研究1～4の一貫性をより強められるよう、研究4において、65歳以上のみを対象とした先行論文の結果を参考にしたことを強調する。

試験結果の要旨

審査対象者 岡田 明子

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受けるに十分な能力を有すると認めた。